

# WAKO CIRCLE

和光大学通信  
No.  
**128**  
2011/04/01

WAKO CIRCLE

No.128

2011/04/01

発行人 ● 伊東達夫  
発行所 ● 和光大学 東京都町田市金井町 2160 ☎044-988-1433 <http://www.wako.ac.jp/index.html>



## CONTENTS

- 新入生へのメッセージ ● 岡上さんぽ
- ここに興味のある学生に興味があります ● Campus Snap(好きな町を教えてください)
- Club Activities(サッカー一部) ● MY CHOICE(額賀美紗子先生)



## OUR NEIGHBORS

Vol.8

～ 隣人探訪 ～

かじのや納豆 社長 梶 俊夫さん

和光大学に通う人にとって、その近さといい匂いといい、印象に残らないわけがないお店としてこの「かじのや納豆」がある。

岡上に本社と工場を構える株式会社カジノやは、その販売店を通して地域の人に親しまれているが、今回はひとつ踏み込んだことをお聞きしようと社長である梶俊夫さんにお話をうかがった。

話が始まってすぐに、梶さんは工場見学を勧めてくださった。「見てくれば、一番早いよね」という鋭い判断はさすがである。

納豆を深く考える機会はあるものではないので、それは興味関心が揺さぶられるような新鮮な体験であったし、なによりもそこにはかじのや納豆が理念として置く「お客様の目線から納豆づくりに励む」ためのアイデアと技術が溢れていた。

小学校で50人に聞くと5、6人は納豆を食べたことがないと答えるという話を聞いて、失望にも似た気持ちになったのは、やはり大豆がどういう工程を経て納豆になっていくか、ありありとその雄大な羈旅を見せられた後では、私にも納豆への愛情が湧いてしまっていたからだろう。

梶さんが社をあげて毎年行っている、岡上小学校との大豆栽培の体験学習もそういう「納豆離れ」の経緯から行っているのかと尋ねるとどうやらそれだけが理由ではないようである。

「地域の人には、多くのご迷惑をおかけしていると思うんですよ。工場があるから、騒音にしても匂いにしても。だから私

たちからも地元との密着をもって協力したり、またご協力を得たり、お互いにキャッチボールをして住民の方とお付き合いを続けられれば、それが一番いいと常に思っているんです。岡上小学校との食育活動は、その一環としても挙げられます」

梶さんは、「地域」や「コミュニティ」といったキーワードを多く挙げていらしたが、その眼差しは真剣そのものというより、何か他のことを考えているような、「ふくよか」という言葉の持つ口当たりの良さに似た、豊かな姿勢がうかがえるものであった。

「納豆は昔の味が良かった」と言われることがあるという。梶さんはその想いに全力で応えようと毎日納豆づくりに奮闘している。(文=M.Y)

▼特別に工場見学をさせていただきました

